

## 師走(December)の校長 令和3年度第2学期終業式校長訓話(抜粋) (R3.12.24)

令和3年度第2学期の終業式は、今年度初めて全校生徒が体育館に集まって行うことができました。

訓話のメインは、有名な『鎖につながれた象』という寓話を紹介しました。

【サーカスの象は、鎖でつながれておとなしくじっとしています。でも、鎖の先の杭や丸太を引っこ抜くだけの力を持っているのに、何故その力を発揮して逃げないのでしょうか？

調教師がまだ小さい頃の象に最初に仕込むのは、その足に鎖をつけ太い丸太につなげて毎日を過ごさせることだそうです。そうすると逃げようとしても鎖が足かせとなり逃げられません。次第に象はこのとらわれの状態に慣れてしまい、逃げるのをあきらめるようになります。大人になって巨大な体と強い力の持ち主になってからも、足に鎖を巻いておきさえすれば、象は決して逃げだそうとはしません。たとえ、鎖の先に小さな小枝が結んであるだけでも・・・】

象は「自分にはどうせできっこない」とか「自分にはたいした力はない。だから何をやっても無駄、諦めよう」と思い込んでいるから、何もせずにじっとしているのです。この感覚は人間にもあえはまることで、『学習性無力感』というそうです。多くの人は自分で限界を設定し、本来の力を存分に発揮できずにいるのも事実です。繰り返しお願いします、自己の可能性に線を引き、失敗を恐れずチャレンジしていく姿勢を忘れないでください！

さらに、この『鎖につながれた象』のサイドストーリーを紹介しました。

【サーカスにいる複数の象の中で、ある象が自分の力で鎖をひきちぎって、自分の生きたい世界、野生に飛び出しました。そのときサーカスに残った象達は何を考えたと思いますか？

「サーカスを出たら食料にありつけないかもしれない」とか「野生の動物に襲われるかもしれない」といって、リスクばかり考え、自分が飛び出さないことを正当化するのは。周りの象も逃げ出そうとしてないし、このままがいいやと思いついていました。】

「誰か意見や質問のある人はいませんか？」とか「誰か代表でやってみようと思う人はいませんか？」など授業や様々な行事において投げかけられることが多いフレーズです。そんなとき、皆さんは「周りの目は気になるし、失敗したらどうしよう。恥ずかしいし、どうせ誰かがやってくれる」などと考えて何もしない自分を正当化しているのではないですか？

君達もサーカスの残った象のように、自分の足にたくさんの鎖につながれているのじゃないですか？

成長できることは自他共に喜びであり、ほとんどの人は成長することを望んでいます。でも、成長するには、少なからずリスクや苦しみを伴うものです。そのリスクには、「行動を伴うリスク」と「行動しないリスク」の2種類があるのです。前者は、行動することにより、成功して達成感を味わうこともあれば、逆に失敗し、後悔し、反省することもあるでしょう。しかし、それは今後の成長に必ずつながります。

でも、後者の行動しないリスクは、成長につながることは全くなく、むしろ、安全かつ安心な「不幸」を選んでいるのだということを、ぜひわかってもらいたい。

益高生諸君、君達は日々、素直に真摯に本当によく頑張っています。

ただ、いつも苦しみや行動に伴うリスクを避ける人は、安心、安全な場所に留まろうとする人であって、本当の喜びや成長、自立とは無縁の人生を送ることになってしまいます。

君達がさらに成長するために、些細な事に対しても、自分事として「行動を伴うリスク」をとる勇気を持つことであり、少しずつでも自ら行動してみようという思いを持ってくれることを大いに期待します。

最後になりますが、この冬休みは令和3年の自分の姿をしっかりと振り返り、新たな年の2022年令和4年に向けて、できれば本日の話も思いだしながら、「新年の決意」をしてもらいたいと思います。

それでは皆さん、良いお年をお迎えください。